

# 第 134 回

# 信州整形外科懇談会

日本整形外科学会認定教育研修講演

(日整会 専門医 1 単位)

講師：新潟大学大学院医歯学総合研究科 機能再建医学講座  
整形外科学分野

教授 川島寛之先生

演題：骨腫瘍を診断する際のコツ

日時：2025年2月8日(土) 12:30～

会場：信州大学医学部附属病院外来棟4階 大会議室

(車でお越しの際は、信州大学附属病院駐車場(200円)をご利用ください)

参加費：3,000円(初期研修医・コメディカル；1,000円)

(参加には事前の申し込み、参加費振り込みが必要になります。当日は本プログラム送信の際に添付してあるご芳名カードを記載の上、会場入り口にてご提出をお願いいたします。ご芳名カードの提出をもって参加受付とさせていただきます。)

抄録掲載料：1,000円(発表者)

単位申請料：1,000円(日整会教育研修単位取得希望の場合、事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。申し込み時に日整会の会員番号が必要となります。)

単位の認定は当日、会場にてバーコードリーダーでQRコードを読み込みます。日整会新基幹システム JOINTS が開始され、日整会会員カードが廃止となり、QRコード管理となります。

<https://sites.google.com/joa.or.jp/jointsnews/#h.eix7rf8mlmic> をご参照ください。)

発表：1例報告1題4分、その他5分、討論2分、パソコン単写

抄録：信州医学雑誌に掲載されます。

当番幹事 信州大学医学部 運動機能学教室

高橋 淳

信州大学整形外科懇談会事務局

TEL 0263-37-2659(直通) FAX 0263-35-8844

共催 信州整形外科懇談会／科研製薬株式会社

## 参加方法と発表形式について

### 信州整形外科懇談会 入力フォーム



<https://forms.gle/CRjh9893pybS7usx9>

参加申し込み Google フォーム入力締め切り: **2025年1月29日(水)**

#### 参加方法

Google フォーム <https://forms.gle/CRjh9893pybS7usx9> より必要事項を入力後に、金額を確定して事務局よりメールにてお振込みを依頼いたします。指定された金額を下記口座へ**お名前のみ**を御明記の上お振込みください。

八十二銀行 信州大学前支店 普通口座 142543  
口座名義: 信州整形外科懇談会事務局

参加費振り込み締め切り: **2025年1月31日(金)12:00(正午)**

※手続きの都合上、申し込み、振り込みは早めに設定されています。ご協力をよろしくお願いいたします。  
※会費振り込み後、当日不参加となった場合、参加費は返金いたしますが、振込手数料を引いた金額での返金となります。

#### 発表者の方へ

① 発表用 PowerPoint ファイル  
ファイル提出用 Google フォルダ内に提出してください。  
発表用ファイルの提出締め切り: **2025年2月3日(月)**

※発表用ファイルを共催の**科研製薬株式会社**で確認するため、**締め切り厳守**でお願いいたします。

② 信州医学雑誌用の抄録(本文 400 文字)  
ファイル提出用 Google フォルダ内の「信州医学雑誌用抄録ひな形(400 字)」(Word ファイル)に上書きして信州医学雑誌用の抄録を作成してください。  
抄録には演題名、所属、演者名、400 字以内の本文をご記入お願いします。  
信州医学雑誌用抄録提出締め切り: **2025年2月8日(土)**

## 製品紹介 (12:30~12:40)

関節機能改善薬 アルツディスポ関節注 25mg 科研製薬株式会社

## 下肢 (12:40~13:40)

座長：小山 傑

### 1. 前十字靭帯再建術後における術後外固定の意義

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

丸の内病院 整形外科<sup>2)</sup>

○小山勇介<sup>1)</sup>、天正恵治<sup>2)</sup>、前角悠介<sup>1)</sup>、熊木大輝<sup>1)</sup>、小山 傑<sup>1)</sup>、下平浩揮<sup>1)</sup>、堀内博志<sup>1)</sup>、高橋 淳<sup>1)</sup>

前十字靭帯再建術後における初期外固定の意義については未だはっきりしていない。当院で前十字靭帯再建術を行った症例で術後外固定の有無が術後の臨床成績に与える影響について比較検討を行った。

### 2. 足趾変形の治療経験

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科<sup>1)</sup>

長野県立こども病院 整形外科<sup>2)</sup>

○野村博紀<sup>1)</sup>、酒井典子<sup>2)</sup>、奥田 翔<sup>1)</sup>、山口浩平<sup>1)</sup>、石垣範雄<sup>1)</sup>、外立裕之<sup>1)</sup>

外反母趾、関節リウマチによる足趾変形に対する外科的治療は決して簡単ではなく再発症例も少なからず経験する。症例数は少ないが、当科における治療経験を矯正角度を中心に考察したので報告する。

### 3. 寛骨臼回転骨切り術後に骨癒合が遷延し治療に難渋した寛骨臼形成不全の2例

信州大学 整形外科

○土肥久悟、下平浩揮、小山勇介、前角悠介、熊木大輝、小山 傑、堀内博志、高橋 淳

寛骨臼回転骨切り術で初期固定不良により骨癒合が遷延し、骨形成促進薬や体外衝撃波にてようやく骨癒合に至った2症例を経験した。初期固定には正確な骨切りと固定力のある固定材料を用いることが重要である。

#### 4. 変形性膝関節症に対するバイオセラピーの治療経験

百瀬整形外科スポーツクリニック

○百瀬能成

変形性関節症に対する新たな治療法としてバイオセラピーが注目されている。今回、PFC-FD 療法を施行した変形性膝関節症 187 例 229 膝について、治療後 2 年までの成績について報告する。

#### 5. \*骨盤後傾症例への THA 術後反復性前方脱臼に対して再置換術を行った 1 例

諏訪赤十字病院 整形外科

○小林誉典、小林千益、岩浅智哉、畑 宏樹、柳澤架帆、中川浩之

骨盤が後方に傾斜した症例への後方アプローチセメント THA 術後 3 年に反復性前方脱臼を生じ再置換を行った 1 例を経験した。問題点を文献的考察を交えて検討する。

#### 6. 変形性膝関節症に対する新たな治療法：Double Level Osteotomy の治療成績

丸の内病院 整形外科<sup>1)</sup>

信州大学 整形外科<sup>2)</sup>

○天正恵治<sup>1)</sup>、小岩 海<sup>1)</sup>、前田 隆<sup>1)</sup>、縄田昌司<sup>1)</sup>、下平浩揮<sup>2)</sup>、高橋 淳<sup>2)</sup>

Double Level Osteotomy は大腿骨と脛骨を同時に骨切りし変形を矯正、関節面の適合性を改善させる事で除痛、膝関節の機能改善を図る新しい手術治療法である。本発表では本術式の短期成績について報告する。

#### 7. ROSA を用いた TKA 術後短期成績

丸の内病院 整形外科

○小岩 海、天正恵治、前田 隆、縄田昌司

人工膝関節手術支援ロボット Robotic Surgical Assistant (ROSA) を用いた人工膝関節置換術 (TKA) 後の短期成績について評価検討した。ROSA を使用することで大腿骨コンポーネントのより正確な設置が可能となる。

## 脊椎 (13 : 40 ~ 14 : 40)

座長：笹尾 真司

#### 8. \*巨大ヘルニアに対する神経根ブロックの後に尿閉を生じた腰椎椎間板ヘルニアの 1 例

安曇野赤十字病院 整形外科

○千年亮太、泉水邦洋、鎌仲貴之、林 大右、小田多井俊介

28 歳女性。腰下肢痛を主訴に診断された L4/5 椎間板ヘルニアに対して神経根ブロックを施行され、同日中に尿閉をきたし緊急手術に至った 1 例を経験したので報告する。ヘルニア増悪の機序と今後の対応について考察する。

## 9. 腰椎脊髓造影検査時の complete block 症例の特徴および腰椎除圧術に及ぼす影響 (第1報)

国保依田窪病院 整形外科

○野口武昭、滝沢 崇、古作英実、泉水康洋、中西真也、三澤弘道

腰部脊柱管狭窄症に対する手術の術式を決定する上で、腰椎脊髓造影検査は有用な検査法である。今回は脊髓造影検査時に complete block を認めた症例に着目し、その特徴および、腰椎除圧手術に及ぼす影響を比較考察する。

## 10. 強直性脊椎疾患に伴う椎体骨折治療の当院における工夫

飯田市立病院 整形外科

○木下哲史、林 幸治、久米田慶裕、畑中大介、伊坪敏郎、伊東秀博

2023年～2024年までに強直性脊椎疾患の椎体骨折患者(5名)に対し、後方椎体固定術を行った。これらの症例に対して工夫した治療経過を経時的に報告する。

## 11. 腰椎椎弓切除術に対する術式間における創部滲出についての比較と検討 第3報

国保依田窪病院 整形外科<sup>1)</sup>

信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部<sup>2)</sup>

○中西真也<sup>1)</sup>、滝沢 崇<sup>1)</sup>、池上章太<sup>2)</sup>、古作英実<sup>1)</sup>、泉水康洋<sup>1)</sup>、野口武昭<sup>1)</sup>、三澤弘道<sup>1)</sup>

第132回、第133回信州整形外科懇談会でも研究報告してきた。今回は棘突起縦割式椎弓切除術の方が棘突起切除式椎弓切除術よりも滲出頻度が有意に多かったため、その原因詳細につき考察する。

## 12. 腰椎破裂骨折に対するトラウマデバイスを有した経皮的椎弓根スクリューによる椎体矯正

長野赤十字病院 整形外科

○小清水宏行、長谷川弘晃、佐藤 馨、宮津 優、石原典子、児玉敏宏、瀧野孝明、出口正男

近年トラウマデバイス実装の経皮的椎弓根スクリュー(PPS)によって、腰椎破裂骨折に対して低侵襲に椎体矯正が可能となった。特に椎体前縁の矯正率が高く、矯正損失率は椎体前後縁いずれも低く、とても有用であった。

## 13. 当院における頸椎症性筋萎縮症に対する頸椎前方除圧固定術による短期成績の比較考察

国保依田窪病院 整形外科

○泉水康洋、滝沢 崇、古作英実、中西真也、野口武昭、三澤弘道

頸椎症性筋萎縮症でC5障害による三角筋の筋力低下が重篤である場合、頸椎前方除圧固定術の適応となるケースがある。当院で頸椎前方除圧固定術を行った症例を提示し、その短期成績につき比較考察したので報告する。

14. \*腰椎椎間板ヘルニアの術後再発例に対しヘルニコアを使用した1例

安曇野赤十字病院 整形外科

○小田多井俊介、鎌仲貴之、千年亮太、林 大右、泉水邦洋

症例は54歳、男性。L5/S 椎間板ヘルニア術後にヘルニアが再発し、下肢筋力低下、腰痛と下肢痛を認めた。同部位にヘルニコアを注入したところヘルニアが縮小し、下肢筋力低下・症状も改善し、ヘルニアの再発なく経過した症例を報告する。

————— <休憩 20分> —————

外傷 (15:00~15:50)

座長：宮岡 俊輔

15. 脊椎骨盤解離に対してハイブリッド室術中CTガイド下でTriangular osteosynthesisを行った小経験

信州大学 整形外科

○小野 覚、笹尾真司、大場悠己、宮岡俊輔、前角悠介、高橋 淳

当院では骨盤骨折に対してハイブリッド室下で術中CTナビゲーションを用いて内固定を行っている。骨盤骨折の中でも不安定性の高度な脊椎骨盤解離において、Triangular osteosynthesisを一期的に行ったため考察を含めて報告する。

16. \*母趾末節骨の外傷性長母趾伸筋腱付着部剥離骨折に対して鋼線固定術を施行した1例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○伊藤慎太郎、太田浩史、渡邊 柊、永井亮輔、小田切優也、磯部文洋、  
狩野修治、中村恒一、向山啓二郎、畑 幸彦

足趾の外傷性伸筋腱付着部剥離骨折は、一般的に国内外においても極めて稀とされる。今回、キルシュナー鋼線2本を用いたextension block法による経皮的鋼線固定術を施行し、術後経過良好であった1例を経験したので報告する。

17. \*経骨孔法とスーチャーアンカー法を併用し修復した大胸筋断裂の1例

飯田市立病院 整形外科

○久米田慶裕、伊坪敏郎、木下哲史、林 幸治、畑中大介、伊東秀博

53歳男性。パラアイスホッケー中に大胸筋断裂を受傷した。受傷14日に経骨孔法とスーチャーアンカー法を併用した修復術を施行した。術後半年で可動域制限なく、術後1年で競技復帰、スポーツスコア100点であった。

## 18. \*転落による鎖骨骨折、多発肋骨骨折術後に腹腔内大量出血を呈した1例

諏訪赤十字病院 整形外科<sup>1)</sup>

信州大学 整形外科<sup>2)</sup>

○柳澤架帆<sup>1)</sup>、岩浅智哉<sup>1)</sup>、宮岡俊輔<sup>2)</sup>、小林誉典<sup>1)</sup>、畑 宏樹<sup>1)</sup>、倉石修吾<sup>1)</sup>、  
中川浩之<sup>1)</sup>

転落により鎖骨、多発肋骨骨折、肝損傷等を受傷し、鎖骨、肋骨骨折術直後に肝損傷部からの腹腔内出血が判明した1例を経験した。多発外傷では、特に全身状態の把握、他科との連携を密にする必要性を再認識した。

## 19. \*uHA/PLLA スクリューを使用した第2中足骨頭関節内骨折の1例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○渡邊 柊、太田浩史、畑 幸彦、中村恒一、向山啓二郎、狩野修治、磯部文洋、  
小田切優也、永井亮輔、伊藤慎太郎

15歳、男性。バレーボールでつま先から着地、左第2中足骨頭関節内単独骨折を受傷。骨頭が水平面で骨折、背側骨片背側転位を認めた。uHA/PLLA スクリューで固定し、術後経過は良好であった1例を経験したので報告する。

## 20. 当院での Gustilo 分類 typeⅢB 開放骨折の治療経験

信州大学 整形外科

○奥原大生、宮岡俊輔、中村駿介、阿部雪穂、前角悠介、小山勇介、笹尾真司、  
高橋 淳

Gustilo 分類 typeⅢB 開放骨折では、骨折治療に加え軟部組織再建を必要とするため、その治療は容易ではない。当院で2016年から2024年の間に経験した17例について、合併症や治療内容について検討した。

## 上肢 (15:50~16:35)

座長：阿部 雪穂

## 21. PIP 関節屈曲拘縮を認める屈筋腱鞘炎に対する FDS 切除術の検討

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○永井亮輔、中村恒一、磯部文洋、畑 幸彦、太田浩史、向山啓二郎、狩野修治、  
小田切優也、伊藤慎太郎、渡邊 柊

屈筋腱鞘炎はA1 pulley 以外にも通過障害をきたし、ときにPIP関節屈曲拘縮を呈する。当院では重度のPIP関節屈曲拘縮を認めるばね指に対してFDSの全切除術を行っている。今回我々が施行した症例の術後経過について報告する。

## 22. 当院における骨性マレット指に対する保存治療の成績について

まつもと医療センター 整形外科

○石井 良、植村一貴、鈴木周一郎、土屋良真

当院における骨性マレット指に対する手術、保存治療の成績を後ろ向きに比較検討した。合併症や骨癒合の有無は両群で差はなかった。本研究結果から、骨性マレット指の治療では保存治療も有力な選択肢であると考えられる。

## 23. 性差は広範囲腱板断裂の術後成績に影響を与えるのか？

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 整形外科<sup>1)</sup>

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科<sup>2)</sup>

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科<sup>3)</sup>

○川上 拓<sup>1)</sup>、畑 幸彦<sup>2)</sup>、石垣範雄<sup>3)</sup>、小田切優也<sup>2)</sup>、太田浩史<sup>2)</sup>、  
中村恒一<sup>2)</sup>、向山啓二郎<sup>2)</sup>、狩野修治<sup>2)</sup>、磯部文洋<sup>2)</sup>、永井亮輔<sup>2)</sup>、  
伊藤慎太郎<sup>2)</sup>、渡邊 柊<sup>2)</sup>

男女間の生物学的特性の違いは肩関節機能に影響を及ぼす可能性があるが、腱板断裂治療は画一的な治療が行われているのが現状である。今回、性差が広範囲腱板断裂の術後成績に及ぼす影響とその原因について検討した。

## 24. \*若年者の円回内筋に発生した非外傷性骨化性筋炎の1例

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

まつもと医療センター 整形外科<sup>2)</sup>

○瀧澤優吾<sup>1)</sup>、林 正徳<sup>1)</sup>、鈴木周一郎<sup>2)</sup>、岩川紘子<sup>1)</sup>、宮岡俊輔<sup>1)</sup>、阿部雪穂<sup>1)</sup>、  
中村駿介<sup>1)</sup>、高橋 淳<sup>1)</sup>

非外傷性骨化性筋炎は比較的稀な疾患である。今回我々は若年者の円回内筋に発生した非外傷性骨化性筋炎に遭遇し、治療に難渋したので報告する。

## 25. 手術を必要とする凍結肩の特徴

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科<sup>1)</sup>

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科<sup>2)</sup>

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 整形外科<sup>3)</sup>

○小田切優也<sup>1)</sup>、畑 幸彦<sup>1)</sup>、太田浩史<sup>1)</sup>、石垣範雄<sup>2)</sup>、中村恒一<sup>1)</sup>、  
向山啓二郎<sup>1)</sup>、狩野修治<sup>1)</sup>、磯部文洋<sup>1)</sup>、川上 拓<sup>3)</sup>、永井亮輔<sup>1)</sup>、  
伊藤慎太郎<sup>1)</sup>、渡邊 柊<sup>1)</sup>

保存療法に抵抗する凍結肩に対する手術適応を明確にする目的で調査した。若年で罹病期間が長く、関節可動域が屈曲 105°、外転 65°、下垂位外旋 10°より小さい症例が手術適応であると思われた。



## 腫瘍・その他 (16:35~17:10)

座長：高沢 彰

### 26. 化学療法中のがん進行期の高齢者に生じた大腿骨近位部骨折の治療成績

まつもと医療センター 整形外科

○土屋良真、鈴木周一郎、石井 良、植村一貴

がん進行期で化学療法中の高齢者に生じた大腿骨近位部骨折（非腫瘍性骨折）の治療成績を検討した。全症例で比較的早期に自立歩行可能となっていたが、術後死亡までの中央値は4か月と短期であることが特徴であった。

### 27. リウマチ診療における整形外科医の役割

丸の内病院 リウマチ科

○山崎 秀、高梨哲生

関節リウマチは薬物療法の進歩により整形外科から内科が診療する時代になりつつあるが、整形外科医の役割も重要である。当院において地域整形外科医と連携してリウマチ診療を行ったこれまでの治療成績を報告する。

### 28. ＊治療方法に検討を要した頸椎発生動脈瘤様骨嚢腫の1例

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

金沢大学 整形外科<sup>2)</sup>

○奥原大生<sup>1)</sup>、田中厚誌<sup>1)</sup>、岡本正則<sup>1)</sup>、青木 薫<sup>1)</sup>、鬼頭宗久<sup>1)</sup>、高沢 彰<sup>1)</sup>、  
出田宏和<sup>1)</sup>、上原将志<sup>1)</sup>、加藤仁志<sup>2)</sup>、出村 愉<sup>2)</sup>、高橋 淳<sup>1)</sup>

動脈瘤様骨嚢腫に対する治療の主体は手術であるが、発生部位によっては治療方法に検討を要することがある。今回、病的骨折と神経麻痺を伴った頸椎発生例に対して手術を施行し、良好な経過を得た1例を報告する。

### 29. ＊術前補助療法により麻痺の改善が得られた上腕悪性軟部腫瘍の1例

信州大学 整形外科

○大崎史明、出田宏和、岡本正則、青木 薫、鬼頭宗久、田中厚誌、高沢 彰、  
高橋 淳

右上腕悪性軟部腫瘍により正中神経麻痺を生じた59歳男性に対して、術前補助化学放射線療法を施行した。腫瘍の縮小が得られ、神経血管束を温存した縮小手術が可能となり、術後に麻痺の改善を認めた。

# 教育研修講演

(17:30～18:30)

講師： 川島 寛之 先生

新潟大学大学院医歯学総合研究科 機能再建医学講座

整形外科学分野 教授

演題： 骨腫瘍を診断する際のコツ

座長 高橋 淳 先生

信州大学医学部 運動機能学教室 教授

認定単位： 日本整形外科学会専門医資格継続 1 単位

([1] 整形外科基礎科学 [5] 骨・軟部腫瘍)

事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。当日の対応はいたしかねます。

※単位の認定は当日、会場にてバーコードリーダーで **QRコード**を読み込みます。

「日整会 JOINTS」スマホアプリをダウンロードし QRコードを表示するか、JOINTS マイページより QRコードをダウンロードし、印刷して持参してください。

終了後、外来棟 5 階ソレイユで懇親会を行います。

会費は不要です。多数の先生方のご出席をお待ちしております。